

日時：令和元年11月28日（木）

場所：大阪府立東大阪支援学校会議室

- (1) 校長挨拶 学校教育自己診断のアンケート結果を中心に協議する。
重度障がい児童生徒の通学支援について大阪府として今年度より5校で試行をはじめており本校でもスタートした。大阪府全体で行う方向で、今後目が離せない。本校でも随時対応していく。
- (2) 協議事項 ①学校教育自己診断アンケート 保護者の集計結果について
(学校) 回収率は昨年度より10%増で78%
質問項目内容の見直しを行った結果、「わからない」「無回答」が減り肯定的意見が昨年度より増加。
学習サポートボランティア、個人情報の保護の項目については昨年度より、肯定的意見が減っている。ボランティアは回数的には昨年度より減っておらず、積極的に取り組まれている。広く知ってもらう工夫が必要である。
個人情報の流出については、学校全体で注意をはらっていく。
(委員意見) 交流については、実際に障がいのある方とふれあうことが、理解啓発になると思う。交流の機会を増やしてほしい。
- (学校) ②学校教育自己診断アンケート 教員用の集計結果について
回収率は昨年度より1%増の92.5%
保護者用の項目に合わせ、質問項目の内容の見直しを行った結果、どの項目についても肯定的意見が増加した。
医療的ケアの項目については、選択項目に誤りがあった。
生活課程教員で医療的ケアについて知らない教員がいた。
現在、医療的ケアのマニュアルもわかりやすいものにするように見直している。同じ学校内の教員として、医療的ケアに携わらない教員にも知ってもらうように確認していく。
保護者アンケートの結果と比較し、意識の違いの大きい項目について今後検討していく。
- (委員質問) カウンセリングマインドを取り入れた、児童生徒の指導は実際にはどのように行っているのか。
- (学校) 臨床心理士のカウンセリングを受け、担任がアドバイスをもらい日々の教育活動に活かしている。また、スクールソーシャルワーカーの助言を受け、様々な関係機関と連携している事例もある。学校全体としても、研修

や講習を行っている。今年度はアンガーマネージメント講習を行った。

(3) 報告 ①授業アンケートについて

今年度は日曜参観日にもアンケートを実施した。

おおむね、好評価であった。

②令和2年度教科書採択について

別紙 八尾支援学校から入学する生徒については、過去のつながりも考慮し採択した。

③視線入力事例報告

小学部5年生・高等部普通課程1年生の事例報告

④重度障がい児童生徒の通学支援について

今年度大阪府下5校5人で試行がはじまった。本校は準備等が一番に整い6月からスタートした。現在2人目の準備を進めているところ。

今後、医療的ケア保護者懇談会等でも、情報提供をしていく。

⑤その他

(委員より) 親亡き後の準備をするという活動をしている。子どものころからの病歴や、はしかなどの伝染病の記録などがなく、親が高齢になった時に困るケースがある。学校時代に母子手帳などに記録を残していけば役に立つという情報をPTA活動などで伝えてほしい。

(委員より) 視線入力装置を使っている児童生徒は何人くらいいるのか。視線入力装置とその活用について、知らない保護者も多いので、また視線入力装置について保護者に情報提供してほしい。

次回 第3回学校運営協議会 令和2年2月予定